

第 4 章

子育て支援

荒牧美佐子 (1～2節)



第1節

子育てを支援する
人・機関・サービス

「祖父母や親戚」を子どもの預け先に行っている母親が最も多い。つづいて、「父親」や「保育園・幼稚園（預かり保育）」であった。また、常勤者は、こうした預け先を多く持っていた。

●子どもの預け先があるかどうか

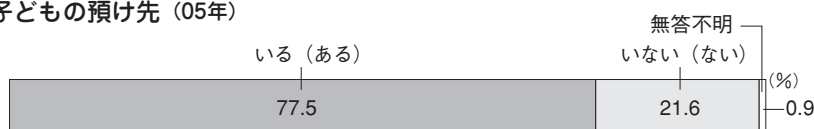
仕事以外の用事で家を空けるときに、子どもを預ける先があるかどうかについては、母親による回答結果のみを抽出した。まず全体については、図4-1-1に示したとおりであり、母親の77.5%が、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と答えている。つづいて、就園状況によって違いがみられるかどうか分析した結果を図4-1-2に示した。ここから、保育園に子どもを通わせる母親では、82.9%の母親が「いる（ある）」と答えており、幼稚園児では

76.8%、未就園児では76.2%にとどまっている。また母親の就業状況との関連（図4-1-3）では、常勤者は89.4%と9割の母親が「いる（ある）」と答えており、パートタイム（82.5%）、専業主婦（74.5%）と続く。常勤者と専業主婦とでは、14.9ポイントの差があった。

●子どもを預ける相手とは

つづいて、子どもを預かってくれる相手についてみてみよう。「父親」「祖父母や親戚」「近所の人」「ベビーシッター・お手伝い」

■図4-1-1 子どもの預け先（05年）

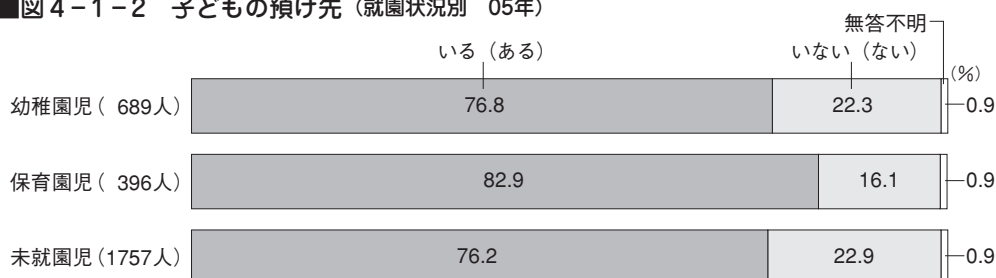


注1) 母親の回答のみ分析。

注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

(サンプル数 2931人)

■図4-1-2 子どもの預け先（就園状況別 05年）



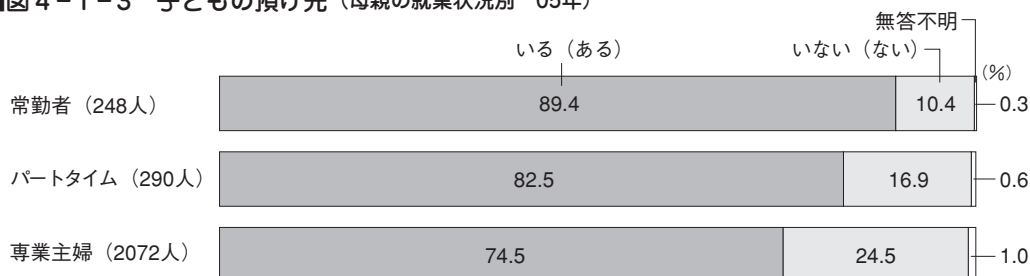
注1) 母親の回答のみ分析。

注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

「保育園・幼稚園（預かり保育）」「民間の託児サービス（一時預かり）」「自治体の育児支援サービス」「その他」という選択肢を設定し、母親にたずねた（複数回答）。全体の結果は図4-1-4に示したとおりであり、最

も多いのは「祖父母や親戚」78.9%となっている。つづいて、「父親」51.1%、「保育園・幼稚園（預かり保育）」21.5%、「近所の人」12.2%とつづく。

■図4-1-3 子どもの預け先（母親の就業状況別 05年）

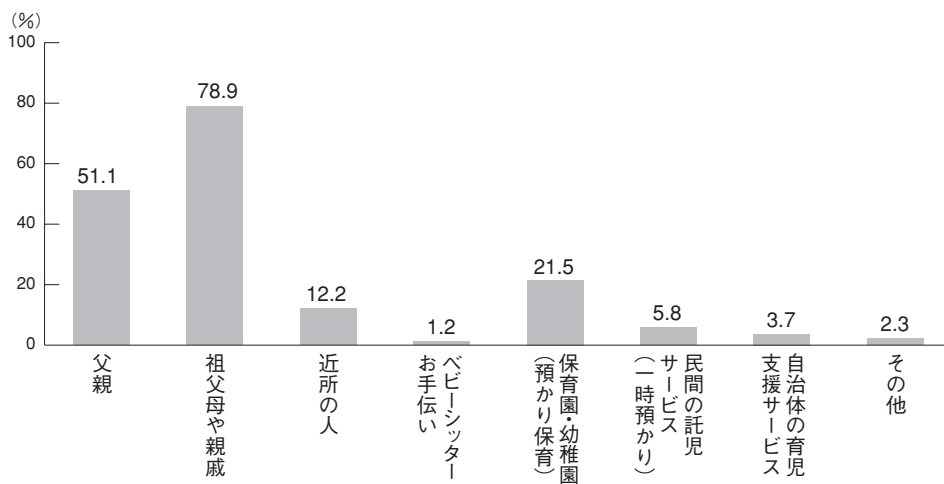


注1) 母親の回答のみ分析。

注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

注3) 母親の就業状況について「フリー（在宅ワークを含む）」「産休、育休中や休職中」「その他」および無答不明の人は図から省略した。

■図4-1-4 子どもを預ける相手（05年）



注1) 複数回答、「その他」を含む8項目の中から選択。

(サンプル数 2263人)

注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

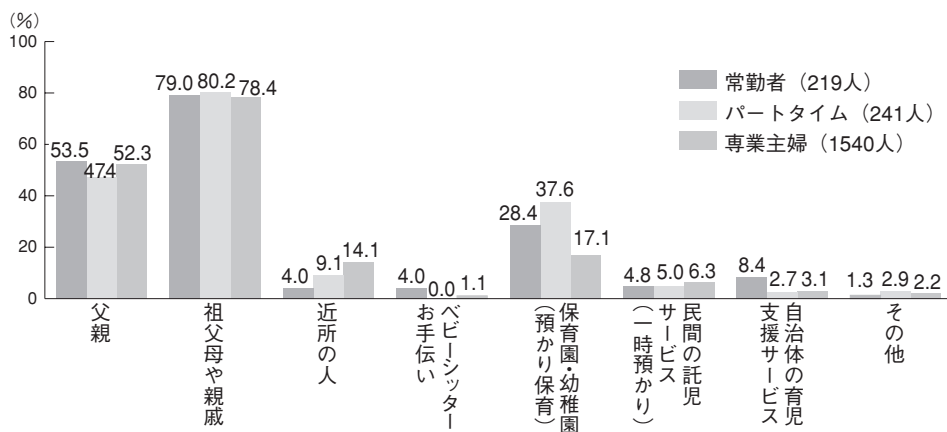
注3) 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親のみ分析。

母親の就業状況別にみると（図4-1-5）、常勤者、パートタイム、専業主婦の3群でとくに興味深い差があったのは、「父親」と「保育園・幼稚園（預かり保育）」である。母親がパートタイムの場合、「父親」に子どもの面倒を見てもらう割合が最も低い（47.4%）。その一方で、「保育園・幼稚園（預かり保育）」の利用が多い（37.6%）。また、常勤者の場合、「自治体の育児支援サービス」を利用している割合が3群のなかで最

も高かった（8.4%）。

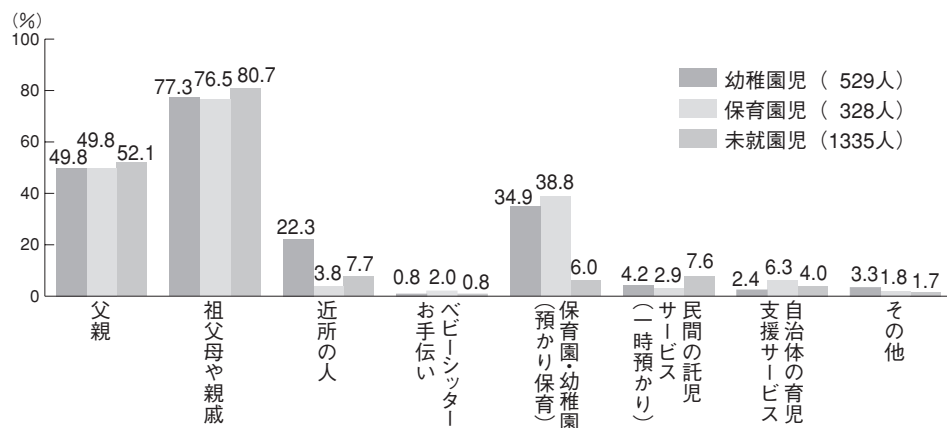
最後に、就園状況との関連について図4-1-6に結果をまとめた。未就園児をもつ母親は、幼稚園・保育園児をもつ母親に比べて、「保育園・幼稚園（預かり保育）」の利用が圧倒的に少ないことがわかる。幼稚園・保育園での預かり保育などの子育て支援が未就園児までは、まだ開かれていない現状が垣間見られる。

■図4-1-5 子どもを預ける相手（母親の就業状況別 05年）



- 注1) 複数回答、「その他」を含む8項目の中から選択。
- 注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。
- 注3) 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親のみ分析。
- 注4) 母親の就業状況について「フリー（在宅ワークを含む）」「産休、育休中や休職中」「その他」および無答不明の人は図から省略した。

■図4-1-6 子どもを預ける相手（就園状況別 05年）



- 注1) 複数回答、「その他」を含む8項目の中から選択。
- 注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。
- 注3) 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親のみ分析。

第2節

幼稚園・保育園への要望

園に対する要望をみると、5年前に比べ、園に「子どもに友だち付き合いが上手になるような働きかけをしてほしい」や「知的教育を増やしてほしい」「保育終了後、おけいこ事をやってほしい」との声が強くなっている。また、保育園児をもつ母親が、いざという時の子どもの預かりを望む一方で、幼稚園児をもつ母親は、保育時間の延長を求めるなど、子どもの預け先としての機能に対する要望も強い。

- 5年前より、「子ども同士の交流」「知的教育」「おけいこ事」を求める声が強くなっている

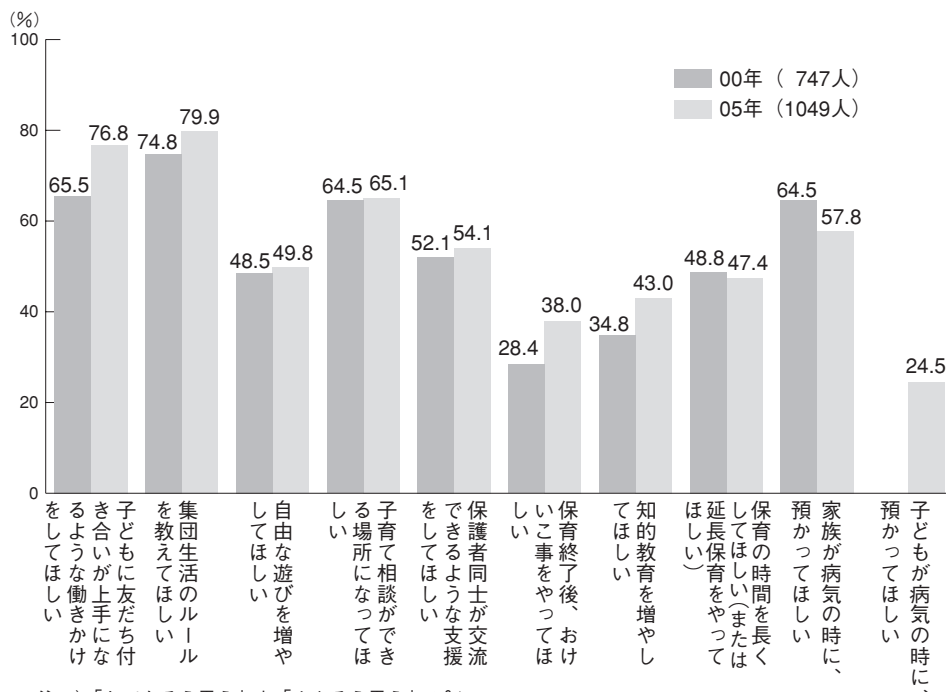
幼稚園・保育園への要望については、母親による回答結果のみを抽出した（図4-2-1）。5年前と比較し、幼稚園・保育園への要望（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」割合）が高くなっているのは、まず「子どもに友だち付き合いが上手になるような働きかけをしてほしい」（11.3ポイント増）、「集団生活のルールを教えてほしい」（5.1ポイント増）である。これは、少子化や地域の結びつきの低下、子どもが安全に遊べる場所の減少などを背景に、幼稚園・保育園以外で子どもが友だちを見つけるのが難しくなっていることを受けた結果かもしれない。またこのほかには、「知的教育を増やしてほしい」（8.2ポイント増）、「保育終了後、おけいこ事をやってほしい」（9.6ポイント増）などといった要望が強まっている。

一方、要望として減少しているのは、「家族が病気の時に、預かってほしい」（6.7ポイント減）であり、また微減ではあるが、「保育の時間を長くしてほしい（または延長保育をやってほしい）」に関しても1.4ポイント減っている。

- 保育園児の母親は「いざという時」に、幼稚園児の母親は「日常的」に、子どもを預ける先を求めている

つづいて、就園状況別に園への要望の比較を行った結果（図4-2-2）、「子どもに友だち付き合いが上手になるような働きかけをしてほしい」についての要望に差はみられなかった。顕著な差があったのは、「保護者同士が交流できるような支援をしてほしい」（13.1ポイント差）といった母親への支援であり、保育園児をもつ母親で高い割合となった。また保育園児をもつ母親で高い傾向を示す要望として、「知的教育を増やしてほしい」（18.8ポイント差）があげられる。保育園に対しても、幼稚園のような教育的機能を求める声が高まっていることを示す結果となったといえるだろう。さらに、保育園児の母親のほうが幼稚園児の母親より要望の強い項目として、「家族が病気の時に、預かってほしい」（18.2ポイント差）、「子どもが病気の時に、預かってほしい」（31.3ポイント差）といった園に預かり先としての機能を求めている。この一方で、幼稚園では「保育の時間を長くしてほしい（または延長保育をやってほしい）」（22.3ポイント差）との要望が強く、保育園では「いざという時」、幼稚園では「日常的」に子どもを預ける先を求めているといえよう。

■図4-2-1 幼稚園・保育園への要望（5年比較）

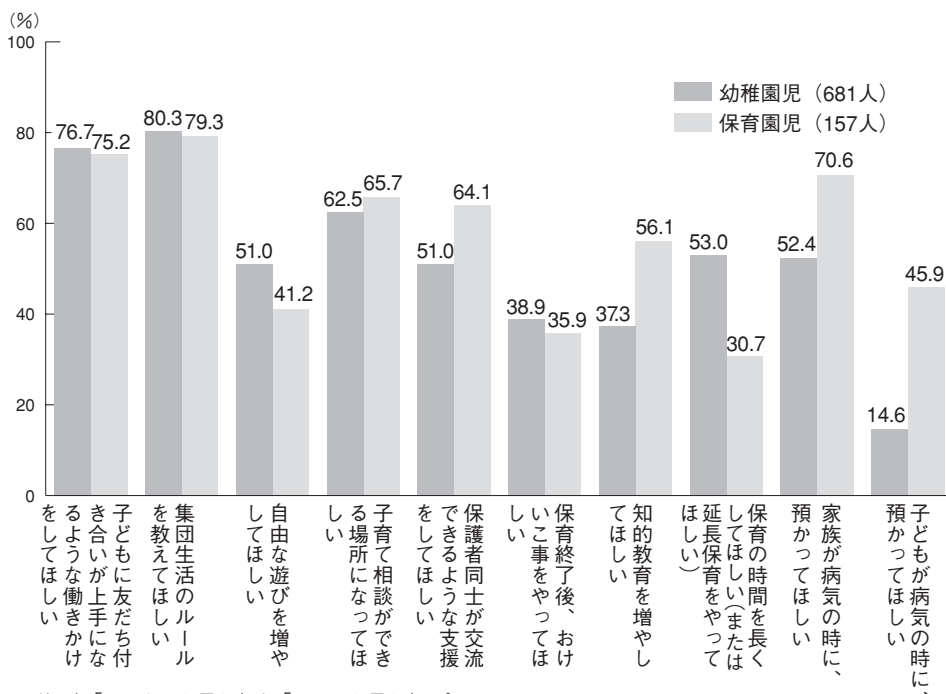


注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 母親の回答のみ分析。

注3) 「子どもが病気の時に、預かってほしい」は00年ではたずねていない。

■図4-2-2 幼稚園・保育園への要望（3～5歳クラス児 就園状況別 05年）



注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 母親の回答のみ分析。